

# 人生100年時代の都市・インフラ学 ～学びWGの成果報告～

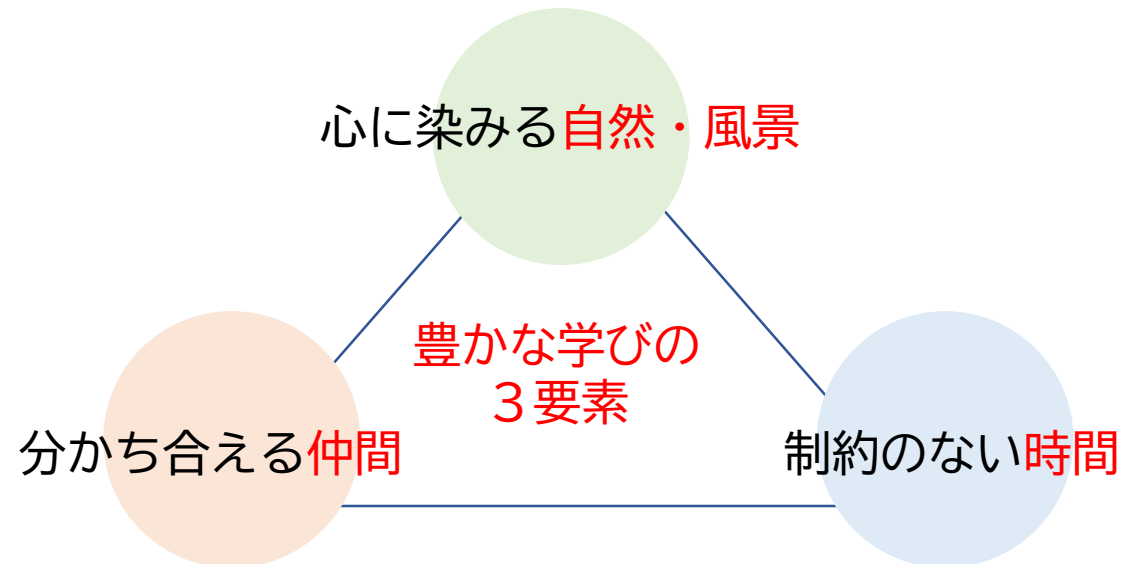
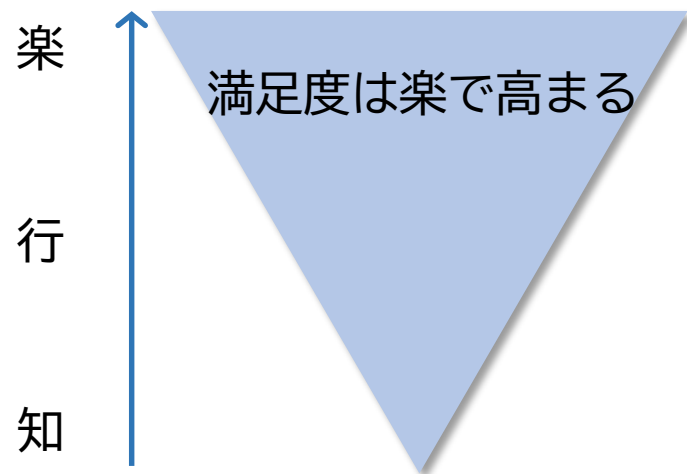
2021年5月25日

第6グループ

# 1. 100年時代の豊かな学びとは何か？ ～豊かさを自分の経験から掘り起こす～

知・行・楽(知るだけの人は好きな人に勝てないし、好きな人は楽しむ人には勝てない)

- ・努力をしている時に誰かと繋がっている
- ・自由な姿勢で学べる、自分の目的がある学び (**LearnとStudyの違い**)
- ・共同作業（一緒に「手」を動かす）→でも、自分の果たした役割はある
- ・ダイバーシティな環境での学び
- ・自然の音、自然の風景がある空間、自然と触れ合うこともある
- ・趣味に繋がる学び
- ・時間に縛られない、リラックスした学び
- ・知識を超えて、身体的な価値になる学び



## 2. 学びの本質を知るために「豊かさを深堀する」

- **学びの成果を承認**してもらえる→**仲間がいて教えて**あげられる
- 成長を実感できる学び（山から風景を見下ろす感じか？）
- 高齢者の学びの特徴
  - ①年を取ると俯瞰的な領域に関心（人間とは？ 都市とか？）
  - ②自分の好きな領域のみを深堀
- **興味を広げる空間づくり**
  - 好奇心をそそるものが日常にある（学びのきっかけ）←ヒト・モノ・コトで刺激
  - 植物園でなく、**自分の家**で植物が学べる
- **「場」の差別化**
  - 東京のオフィスはルーティーンの間
  - 逗子の合宿所は創造の間 ← **風景、余裕のある時間**が充足感を高める
- 学んだことを活かせる場が重要（吐き出す場）



若い時の学び（登山の学び）

- ・ Study
- ・ 全ての領域を均質に学ぶ
- ・ 専門領域を創るための準備期間



高齢者の学び（下山の学び）

- ・ Learn
- ・ 好きなことだけを深く学ぶ
- ・ 俯瞰的知識を学ぶ  
（人生とは？人間とは？・・・）

### 3. 100年時代のライフシーンにおける学びとは？

- ・ 100年時代、生きるための学びも重要 → リカレント教育
- ・ 何を学ぶか？
  - ①リベラルアーツを学ぶ＝老後に豊かに生きるための知識を身に着ける  
人生をつまらなくしない学び
  - ②お金を稼ぐための学びも必要ではないか？＝100年時代の課題！
- ・ 豊かな学び＝人と繋がること → 教えたり、教えられたり → コミュニティも広がる
- ・ 人を教える場は、学校だけである必要はない
- ・ 貯蓄と消費の関係から、段階的に学びの時間を増やせる（自由な学び）  
（年を取ると金銭・時間の余裕ができ、学びに消費を増やせる）  
→ 学びのコンテンツ化（例：デジタルアーカイブ）、在宅で自由に学べる などの環境が必要

・ 知・行・楽 ⇔ 生きるための学び（生活費を稼げる知識の習得必要）

ギャップをどう埋めるか？

↓  
文化・観光を主体の経済システムの構築が必要

## 4. ライフシーンを都市・インフラから考える

### まちがキャンパス、私は教授 ～生活のなかで学べる空間～

- ・ 100年時代は学びの目的＝自己実現の場←必要なインフラ：ミュージアムやTED、劇場みたいなもの
- ・ 人生が多様なシーンで変わる時代→多目的・無目的空間が有益
- ・ 働く・学ぶ・暮らすが一つの空間で行う時代がくる
- ・ 臨場感のある学び場（現場で学ぶ⇒アップルストアであったり）
- ・ まちがキャンパス → 暮らしの中で学びの場が自然と提供される  
→ 聖地のようにクラスターでキャンパスが存在  
→ 都市全体の魅力化にも貢献
- ・ 哲学の道のように、休める場も必要 → 自然に近づく場所でもある
- ・ 学びのビジネスモデルは、「学ぶ人」と「教える人」の間に発生する金銭

